

漢字から学べば、ひらがなも自然に身につく

「でも、小学校へ上がってからのことを考えると、やっぱりひらがなが読めるようになっていないと心配」というお母さんも少なくないでしょう。

ところが、最初から漢字で表記できる言葉は漢字で学ぶ、という学習法を行っていくと、ひらがなは自然と読めるようになるものなのです。

というのも、日本語は本来、漢字とひらがなを組み合わせで表記されるものだからです。たとえば、名詞でも「お父さん」「お母さん」「赤ちゃん」「男の子」といった言葉は漢字かな交じりで表記しますし、「赤い」「長い」「大きい」などの形容詞、「泣く」「走る」「遊ぶ」などの動詞には送りなががあり、また、語尾は活用によってさまざまに変化します。

漢字学習を進める中で、こうした漢字かな交じり表記の言葉を「これは漢字で、これがひらがな」というような説明は一切せずに与えていきますと、幼児は最初、ひとかたまりの言葉として、これらを覚えます。そうしたことをくり返していくうちに、「お父さん」「お母さん」には「お」と「さん」という同じ字がついていること、そして、これらはいつも同じ音を表していることが経験的にわかってきます。

そして、こうした学習をさらに「海は広いな、大きいな」というような文章に発展させて、くり返し読んでいると、「あいうえお」から一字ずつ教えるより、ずっと早く、また正確にひらがなを読む力も身についてくるのです。